

今後の対策など

3月13日 マスク着用 個人の判断で

政府は引き続きマスク着用を推奨する場面として、

- (1) [医療機関](#)の受診、
- (2) 医療機関や[高齢者](#)施設への訪問、
- (3) 通勤ラッシュなど混雑した電車やバス——を挙げた。
- (4) 医療・介護従事者や[発熱](#)などの症状がある人にも着用を求める。

新幹線、JR 指定席車両、航空機内も着用は個人の判断で行う

神奈川県2月20日、新型コロナ対策本部会議、[医療機関](#)や[高齢者](#)施設を訪問する際、県は独自方針として常に着用するように求めると決めた

新型コロナワクチンの今後の接種の方向性

2月22日厚生労働省厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会

▽重症者を減らすことを目的とする、

▽次回接種は2023年の秋冬とする、

▽重症化リスクが高い人には秋冬以前に接種機会を提供する——

2023年の春夏(5～8月)接種:

[高齢者](#)等の重症化リスクが高い人と[医療従事者](#)・介護従事者等
オミクロン株に対応した2価ワクチンを使用

2023年の秋冬(9～12月)接種:

春夏期接種者を含め、接種可能な全ての人に追加接種

秋冬の接種ワクチンは最新の状況を踏まえ2023年度早期に結論

特例臨時接種、2024年3月まで延長

2023年度中は、全ての接種が公費で行われる

初回接種の開始が遅かった6カ月～4歳の乳幼児や、5歳～11歳の小児の接種は2023年度になっても継続して行うことができる。

高齢者、重症化リスクが高い人ら以外は公的関与の適用除外へ

同日の分科会では、2023年度の接種の公的関与についても議論した。厚労省は、2023年度の接種において、

- (1) 65歳以上の人、

(2) 基礎疾患を有する人その他重症化リスクが高いと医師が認める

これ以外の人については接種勧奨と努力義務の規定の適用を除外する

2023年度は1回は無料接種受けられるが多くの人は秋

2024年度以降は未定、費用負担はも不明

イチから分かる5類移行

新型コロナ「5類移行」で医療はどうなる？

	現状	➡	5類移行後
入院勧告	○		✕ できない
入院調整	○		△ 段階的に医療機関 同士の調整へ
発生届	△ (高齢者・妊婦ら)		✕ 定点医療機関による 把握に
医療費 公費負担	○		△ 期限を区切って 一定の支援を継続
ワクチン 公費負担	○		○ 引き続き自己負担 なく接種可能に

入院勧告はできない？

感染症法の規定を根拠とする「入院措置・勧告」はできなくなります。

発生届はなくなる

既に高齢者などに絞られている発生届の提出は、全ての患者で必要なくなります。

5類なら患者負担が生じるよね？

高額とも言われる新型コロナの治療薬、政府は「急激な負担増が生じないように一定の公費支援について期限を区切って継続する」としています。全額公費とまでは言いきっていませんが、当面はある程度の公費負担が続きそうです。

新型コロナ、これまでどんな類型だった？

新型コロナ、これまでの位置づけは？

国内で初めて感染者を確認

2020年2月1日 「指定感染症」に指定

初めての緊急事態宣言

2021年1月7日 「指定感染症」指定を延長

2021年2月13日 「新型インフルエンザ等」に位置づけ

ワクチン接種開始、オミクロン株が主流に

2023年5月8日 「5類感染症」に移行予定